

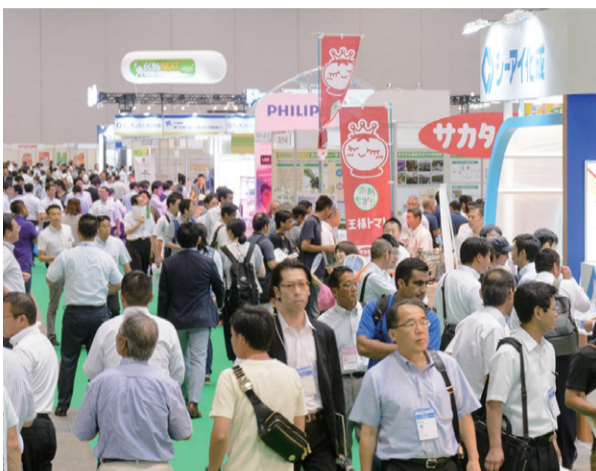


施設園芸・植物工場展
Greenhouse Horticulture & Plant Factory Exhibition / Conference

NEWS

発行元
GPEC NEWS編集室
〒100-0013
東京都千代田区霞が関1-4-2
大同生命霞が関ビル アテックス(株)内
TEL:03-3503-7703 FAX:03-3503-7620
E-mail:ofc@gpec.jp

状況を鑑み、申し込み期限を3月末まで延長



昨年初頭から猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症。上半期は多くのイベントが中止や延期に追い込まれた。これを機に展示会業界でもオンラインへの移行が急速に進んだが、来場者からの「リアル」展示会への要望は強い。いっぽう出展する側も、対面での商談機会が減っている今だからこそ、ターゲットにダイレクトに訴求できる展示会に商機を見出す企業・団体は多い。「展示会で実物を見てもらうためのPRが効果的」「WEB広告など営業手法は様々だが、リアルでの展示会だけは絶対に外せない(大手資材メーカー)と、展示会にかけ熱意を語る。

GPECにおいても、出展者・来場者が安心して参加できるよう感染症対策を強化しており、時代に則した形での展示会開催になる。(詳細は裏面参照)

延期を経て3年ぶりのGPEC

初の愛知開催で期待高まる

日本施設園芸協会が主催する「施設園芸・植物工場展(GPEC)」が、7月14日(水)から16日(金)までの3日間、Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)で開催される。昨年開催予定だったGPECは、新型コロナウイルス感染症拡大のため1年延期となり、前回の2018年以来3年ぶりとなる。今回は、施設園芸が盛んな東海地域で初の開催となり、従来

の東京ビッグサイト開催では来場できなかった人々から歓迎の声が多く寄せられており、期待が高まる。Withコロナでの展示会となる中、多くの企業・団体の出展が決定した。また、地元企業からの出展も多数にのぼり、盛大に開催されることになった。(出展者一覧は裏面参照)

今こそ

リアルでの展示会を

国内では、農業生産者の高齢化・減少に加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外国人労働者の入国制限等により、人手不足が深刻化している。ハウス内の環境制御、自動施肥・灌水システムといった省力化だけではなく、AIやクラウドを活用した生産管理や収量予測など農業全体のスマート化の普及と実装が急がれる。GPECでも期待される分野の一つで、生産者の課題解決のために今回も多く企業が集結する。

高まる

スマート農業への関心

国が進めるスマート農業加速化実証プロジェクトに積極的に取り組んできた誠和は、生産から流通まで、生産者をトータルにサポートする製品・サービスを提案する。ネポ

ンは、農業クラウドサービスとして、リアルタイムでの遠隔制御で省力化に貢献するソリューションを展開する。IoTソリューションを、ノユー社は、農業先進国イスラエル発の灌水施肥システムを展示する。デンソーアグリテックソリューションズ

の工業技術と欧州先進技術を活用したソリューションも見逃さない。日本農業の喫緊の課題に対して、様々な提案を行う各社の展示に注目だ。

スマート農業から大規模災害対策まで

愛知開催ならではの出展者が一堂に

施設園芸の盛んな愛知で開催

主要なメーカーやサプライヤーの多くが愛知県内に本社を構えており、今回の地元開催に各社とも力が入る。大仙は、SDGsを通じて持続可能な施設園芸とスマート農業を提案し、トレンドを取り入れた展示で業界を牽引する姿勢を示す。フルタ電機も地元開催の意気込みから小間数を倍増、ハウスの環境制御デバイス・システムを展示する予定だ。イノチオグループは、自社グループの取扱製品群全体を展示し、幅広く訴求する計画。トヨタネは大幅に小間を増やし、最新ハウスや栽培システム、オリジナルの生産苗などを展示する。

省力化の提案をする。高田種苗は、施設園芸に適した野菜品種を展示する。その他、地元愛知からは、省人化が図れる新素材の水耕パネルなどの資材を提案する金山化成、酸素を水に溶け込ませ生育を促進する装置を展示する三相電機、施設栽培を二元管理できる統合環境制御システムを提案する龍城工業がそれぞれ初出展する。多種多様な出展者が加わり、来場者にとっては見ごたえのある展示会となりそうだ。

植物工場向けも充実

植物工場分野にも多数の出展企業が集まる。

昨年から続くコロナ禍で、衛生面等から改めて植物工場への注目が高まっている。企業の農業新規参入の選択肢としても期待されている植物工場分野にも多数の出展企業が集まる。

生産管理システムを手掛けている小林クリエイトは、今年から開始した植物工場参入支援サービスを提案。自社で植物工場を運営しているからこそできる、ユーザー視点での提案に期待だ。初出展となるエムエーエスインターナショナルは、小規模の植物工場に対応する水耕栽培システムを展示する。11年ぶりの出展となるハンナ インスツルメンツ・ジャパンは土壌や水耕栽培用の測定器メーカーだ。施設園芸での利用はもちろん、今回は植物工場向けにPRしたいと意気込む。アサヒ繊維工業は、生分解性繊維の培地やフィルターなど、環境に配慮した製品を出展予定だ。各社とも植物工場事業者や植物工場参入希望者が多く訪れるGPECに商機を見出す。

初出展も続々

新たに出展する企業も多彩だ。タカミヤは、オリジナルの新型ハウスをGPECで披露。フィルムメーカーのオカモトは、GPECが開催される夏期にタイムリーな遮熱用フィルムなどを提案する。北越工業

は、昨年から施設園芸用に展開した高所作業台車を展示するほか、中国電線工業は、ハウス設備やスマート化に欠かせない耐候性ケーブルを、ロボテックは重量物を容易に運ぶことができるリフターを展示し、

大規模災害対策

多発する台風や、記憶に新しい大寒波による大雪など、大規模自然災害は生産者の経営を圧迫する。政府によるサポート体制は整いつつあるものの、生産者自身による対策も不可欠である。従来からパイプハウス

の強靱化に力を入れる佐藤産業は、強風と積雪に対応した製品を提案。今年は農地のハウスとリモートでつなぎ、コロナ禍ならではの展示を予定している。ハウス資材をトータルに扱う東都興業も台風・大雪対策商材の提案で施設本体の保護に貢献する。そして、渡辺ハイフは、採光性と強度を兼ねそろえ、豪雪・強風地域にも対応したハウスを展示する。また、日本クリントンは、停電対策のニーズが日々高まる今だからこそ、トラクターを動力源とする発電機をもって9年ぶりに出展。

出展申込期限を3月末まで延長

堅調な申し込みが続く2月26日に、出展申込期限を迎えたGPECだが、新型コロナウイルスの動向を見守り出展を保留している企業・団体も多数存在している。こうした状況から、主催の日本施設園芸協会に延長することを決定。新型コロナウイルスの状況を見つつ、出展を検討できることから、事務局には早速、新規の出展検討の問い合わせが寄せられている。出展を検討している方は、早急に事務局へ連絡してほしい。

お問い合わせ GPEC事務局

TEL:03-3503-7703 E-mail:ofc@gpec.jp

〒100-0013

東京都千代田区霞が関1-4-2

大同生命霞が関ビル アテックス(株)内

出展に関するオンライン説明実施中

※詳細は事務局まで

www.gpec.jp